

「令和4年度 入学者選抜」

本年度実施する入学者選抜の
概要

看護学部

説明の結論としてお知らせしたい点

1. 今年度実施する、看護学部の入学者選抜方法は、昨年度から変更ナシ。昨年度の大きな変更が、そのまま今年度の選抜でも、継続されます。
2. 2025年度入試に関しては、未だ文科省からの方針通知がなく不確定要素が多い。
3. この説明は、「入学者選抜実施要項（7月上旬公表）」の該当ページを紹介しながら実施。
⇒ 表記は「【p00】」。「要項」を御手許に。

入学者選抜の基本的考え方【p2】変更ナシ

1. 看護学部のアドミッションポリシー（AP）は、既報の通り。（変更ナシ）
2. 選抜は、受験生がAPに適合している程度を確認することを目的に実施。
受験生がAPにどのくらい適合しているかを計るよう、選抜方法は設計されている。

看護学部アドミッションポリシーの再確認

【p2】変更ナシ

人間や社会への関心を持ち、
客観的・論理的思考ができ、また
自己や他者を尊重できる態度が身についている人

- 1) 人間や社会に強い関心がある人
- 2) 人を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする人
- 3) 客観的・論理的思考ができ、自分の考えや感じたことをわかりやすく表現できる人
- 4) 主体的な学習態度と基礎学力が身についている人
- 5) 看護に強い関心がある人
- 6) 卒業後、山梨県内の保健・医療・福祉分野に就業する強い意志を有する人
(学校推薦型選抜及び特別選抜(社会人選抜))

選抜区分別の選抜科目 (4つの入口) 【p3】

1. 一般選抜 (前期・後期)

- 1) 「大学入学共通テスト」
⇒ 大学で学修するための基礎的学力
- 2) 「小論文」
- 3) 「調査書 と 自己評価書 と 面接 により 多面的・総合的に評価する科目」
⇒ 看護学部で必要とされる能力、意欲、資質

2. 学校推薦型選抜

- 1) 「小論文」
- 2) 「調査書 と 自己推薦書 と 面接 により 多面的・総合的に評価する科目」
⇒ 大学で学修するための基礎的能力
⇒ 看護学部で必要とされる能力、意欲、資質

3. 社会人選抜

- 1) 「小論文」
- 2) 「自己推薦書 と 自己アピール と 面接 により多面的・総合的に評価する科目」
⇒ 大学で学修するための基礎的能力
⇒ 看護学部で必要とされる能力、意欲、資質

選抜区分の概観と定員【p4】

区分	定員	選抜科目		
		共通 テスト	小論文	多面的・総合的 に評価する科目
一般・前期	50名	◎	◎	◎
一般・後期	5名	◎	◎	◎
学校推薦型	45名	×	◎	◎
社会人	若干名	×	◎	◎

選抜区分別の選抜科目 (4つの入口) 【p3】

1. 一般選抜 (前期・後期)

1) 「大学入学共通テスト」

⇒ 大学で学修するための基礎的学力

2) 「小論文」

3) 「調査書と自己評価書と面接により多面的・総合的に評価する科目」

⇒ 看護学部で必要とされる能力、意欲、資質

2. 学校推薦型選抜

1) 「小論文」

2) 「調査書と自己推薦書と面接により多面的・総合的に評価する科目」

⇒ 大学で学修するための基礎的能力

⇒ 看護学部で必要とされる能力、意欲、資質

3. 社会人選抜

1) 「小論文」

2) 「自己推薦書と自己アピールと面接により多面的・総合的に評価する科目」

⇒ 大学で学修するための基礎的能力

⇒ 看護学部で必要とされる能力、意欲、資質

一般選抜(前期・後期)について昨年度改革したポイント【p6, p10, p19】

1. 共通テストの「英語」【p6「注4」】
⇒「筆記（リーディング）」＋「リスニング」
2. 「英語」の配点【p6「注4」】
⇒「リーディング（160点）」＋「リスニング（40点）」
に再換算（『4：1』）し、選抜に使用。
3. 「面接」に代わり、新科目を設計【p10「注3」,「注4」,「注5」】
⇒「調査書と自己評価書と面接により
多面的・総合的に評価する科目」
4. 新科目の配点比重は、300点にて選抜利用【p10】
(2020年度入試までの「面接」は、200点)

一般選抜(前期・後期)の選抜科目 【p6, p10, p19】

1. 共通テスト：5教科6科目 【p6, p19】

- 1) 選抜に指定する科目に、昨年までから主要な変更はナシ
- 2) 今年度から「英語」は「筆記(リーディング)」に加え、「リスニング」も含める
- 3) 「英語」は、合計200点満点になるように再換算
「リーディング」100点 ⇒ 160点満点
「リスニング」 100点 ⇒ 40点満点
- 4) 教科目別の配点比重は、変更ナシ【p19】

2. 小論文 ⇒ 変更ナシ 【p10「注2」】

3. 調査書と自己評価書と面接により多面的・総合的に評価する科目 【p10「注3」,「注4」,「注5」】

- ⇒ 高大接続改革の趣旨に則し、今年度から「面接」に代わる新科目として設計
- ⇒ 配点比重 200点⇒300点満点

一般選抜(前期・後期)の「小論文」の着眼点

【p10「注2」】明確化アリ

※「学力の3要素」との対応関係

1. 主に「思考力、判断力、表現力」の要素に着眼
2. 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の要素も加味
3. これら2つの要素について、受験生がこれまでに主体的で対話的な深い学びを結実してきたか、について、看護学部のアドミッションポリシーに則した観点から、評価。

「自己評価書」 一般選抜書式

般A 自己評価書 (看護学部)

一般選抜

受験番号	氏名
*	

*欄は記入しないでください。

高等学校等までの学校生活全般を通じたあなたの学修状況、及び、家庭や地域社会等における日常生活経験を通じた、あなたの学びや成長の状況について、以下枠内の観点からあなたのこれまでの振り返り、あなた自身をみつめ、文章にまとめてください。

なお記述は、以下の枠に納まるように行ってください。

あなたのこれまでを振り返り、あなた自身をみつめる観点	あなたの学修や成長の状況
『人や社会への関心』について	
『地域社会への愛情やこだわり』と『地域社会への貢献意欲』について	
『人間性の豊かさ』について	
『人や社会の多様さへの態度』について	
『志望の理由』について	

「調査書 と 自己評価書 と 面接 により 多面的・総合的に 評価する科目」(一般選抜) の概要 【p10「注3」,「注4」,「注5」】

1. これまでの「面接」を、新選抜科目へ変更
2. 「学力の3要素」の「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について、志願者の学びの状況を「線」や「面」として、多角的に確認。
3. 以下3つの方向からの情報を統合し、志願者の全体像を、アドミッションポリシーの観点から、多面的かつ重層的に把握し、評価。
 - (1) 『調査書』 (高校の教諭から見た、学習プロセスと学修成果)
 - (2) 『自己評価書』 (志願者が自己評定した、自らの学びと成長)
 - (3) 『面接』 (受け答え通した、面接官から見た学びの状況)

※ これらの三要素・三方向の情報は、相互補完的に活用し、評価の総合化を図る。
4. 調査書及び自己評価書の、個別の得点化は行わない。
5. 個別面接の形式にて実施。
6. 「自己評価書」には、指定書式アリ。(HPにて既報のものから変更ナシ)

学校推薦型選抜の選抜科目 【p13, p14】

1. 小論文 【p13「注1」】学力の3要素との対応関係を明確化

※ 学校推薦型選抜の「小論文」

「知識・技能」の確実な習得と「思考力・判断力・表現力」の2つの学力要素が、志願者に「主体的で対話的な深い学び」として育まれているかを、アドミッションポリシーに即した観点から、評価。

2. 調査書 と 自己推薦書 と 面接 により 多面的・総合的に 評価する科目 【p13「注2」, p14「注3」,「注4」】

- ⇒ 高大接続改革の趣旨に則し、昨年度から「面接」に代わる新科目として設計
- ⇒ 昨年からの配点比重を 200点⇒300点満点
- ⇒ 昨年からの「自己推薦書」の文章量を『800字 ⇒ 1500字』へ増

学校推薦型選抜について昨年度改革したポイント【p13, p14】

1. 「志望の理由」と「課題図書に対する論述」を廃止
2. 選抜科目別の配点設計及び、
選抜科目と「学力の3要素」との対応関係を
公表【p13「注1」,「注2」】
3. 「面接」に代わり、新科目を設計【p13「注2」,「注3」,「注4」】
⇒「調査書と自己推薦書と面接により
多面的・総合的に評価する科目」
4. 選抜2科目の配点比重は、『1：1』にて選抜利用【p13】
5. 「調査書」と「自己推薦書」の着眼点を公表【p14「注3」,「注4」】

「調査書 と 自己推薦書 と 面接 により 多面的・総合的に 評価する科目」（推薦）の概要 【p13「注2」、p14「注3」、「注3」】

1. 「面接」を、新選抜科目へ変更
2. 「学力の3要素」の「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について、志願者の学びの状況を「線」や「面」として、多角的に確認。
3. 以下3つの方向からの情報を統合し、志願者の全体像を、アドミッションポリシーの観点から、多面的かつ重層的に把握し、評価。
 - (1) 『調査書』（高校の教諭から見た、学習プロセスと学修成果）
 - (2) 『自己推薦書』（志願者が自己評定した、自らの学びと成長）：1500字
 - (3) 『面接』（受け答え通した、面接官から見た学びの状況）

※ これらの三要素・三方向の情報は、相互補完的に活用し、評価の総合化を図る。
4. 調査書及び自己評価書の、個別の得点化は行わない。
5. 個別面接の形式にて実施。
6. 「自己推薦書」には、指定書式アリ。（HPで既報の書式から変更ナシ）

「自己推薦書」(推薦)の確認観点 【 p14 「注4」 】

1. 「自己推薦書」は、従来の「志望の理由」、「課題図書に対する論述」を廃止し、これに代わり、新たに提出を求める、本人記載書類。
2. 「自己推薦書」では、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を志願者が自己評定した、自らの学びと成長の視点から、多角的に確認。
3. 個別の得点化は、行わない。
4. 「自己推薦書」で確認する内容
(志願者に、これまでの自身を振り返り、みつめ、文章にまとめることを求める観点)
 - (1) 人や社会への関心
 - (2) 地域社会への愛情やこだわりと、地域社会への貢献意欲
 - (3) 人間性の豊かさ
 - (4) 人や社会の多様さへの態度
 - (5) 志望の理由
 - (6) 卒業後、山梨県内の保健・医療・福祉分野に就業する強い意志

「調査書」の確認観点

【 p14「注3」】

1. 「調査書」は、「**主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**」について**高校の教諭から見た**、志願者の学習プロセス・学修成果として多角的に確認。
2. 「調査書」の個別の得点化は、行わない。
3. 「調査書」において確認する内容
 - (1) 志願者の『**人間性の豊かさ**』
 - (2) 志願者の『**自己や他者を尊重する態度**』
 - (3) 志願者の『**客観的・論理的思考に関する態度**』
 - (4) 志願者の『**協働することへの態度**』
4. 「調査書」では、上記4つの観点の内容について、その能力を育んできたと考えられる高等学校等での学びや活動の状況、地域活動やボランティア活動への参加状況、関連する生活体験等を基に、志願者の「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を確認。

社会人選抜の改革ポイント 【p24】

1. 選抜科目の「学力の3要素」との対応関係を公表

【p24「選抜方法等」の欄】

2. 「面接」に代わり、新科目を設計 【p24「選抜方法等」の欄】

⇒ 「**自己推薦書 と 自己アピール と 面接により
多面的・総合的に評価する科目**」

社会人選抜の選抜科目 【p24】

1. 小論文 【p24「選抜方法等」の欄】 ⇒ 学力の3要素との対応関係を明確化

※ 社会人選抜の「小論文」

「知識・技能」の確実な習得と「思考力・判断力・表現力」の2つの学力要素が、志願者に「主体的で対話的な深い学び」として育まれているかを、アドミッションポリシーに即した観点から、評価。

2. 自己推薦書 と 自己アピール と 面接により

多面的・総合的に評価する科目 【p24「選抜方法等」の欄】

「自己推薦書 と 自己アピール と 面接により 多面的・総合的に評価する科目」(社会人) の概要 【p24】

1. これまでの「面接」を、新選抜科目へ変更
2. 「学力の3要素」の「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について、志願者の学びの状況を確認。
3. 以下3方向からの情報を統合し、志願者の全体像を、アドミッションポリシーの観点から、学修状況を確認。
 - (1) 『自己推薦書』
 - (2) 『自己アピール』
 - (3) 『面接』
4. 個別面接の形式にて実施
5. 「自己推薦書」と「自己アピール」の内容は『p24』説明で確認を

最後に...

1. 看護学部の入学試験上の魅力は、『公正さ』にあります。
試験の実体が、公表情報と異なることは、起きません。
受験生は「選抜要項」を基に、積極的に準備を整えてください。
2. 看護学部の4年間で取得可能な資格など、学部教育課程に関しては、近々に一部、変更予定の内容があります。
助産師を目指す受験生は、大学ホームページへ7月中旬までに掲載予定の告知がありますので、注意してください。
(ホームページやオープンキャンパスで積極的に確認を)